

礼拝 2021年9月5日(日)
題 『故郷で受け入れられなかったイエス』
テキスト：マルコ6：1～6a 節

皆さん、おはようございます。

イエスと弟子たちはガリラヤ地方の中心的な町であったカファルナウムを拠点としてガリラヤ地方の各地の村に神の愛の言葉と癒しの業を行って行きました。そしてイエスの評判はかなり広まっていた。

今日の聖書箇所では、イエスは弟子たちと共に、育たれたナザレの町に久しぶりに帰って来られた時に起こった事が記されています。

小見出しに、

「◆ナザレで受け入れられない」とあります。

1:イエスはそこを去って故郷にお帰りになったが、弟子たちも従った。

ナザレの町はとても小さな町、むしろ村だったと言われます。

主イエスは、聖書によればユダヤのベツレヘムで誕生され、ナザレで育たれ、30歳過ぎまで過ごされたのです。

親しまれている讃美歌、讃美歌21であれば280番1節、2節には、

「馬槽のなかに うぶごえあげ、木工の家に ひととなりて 貧しきうれい、
生きるなやみ、つぶさになめし この人を見よ 食するひまも うちわすれて
しいいたげられし ひとをたずね 友なきもの 友となりて、こころくだ
きし この人を見よ」と歌われています。

ところで、ジョン・ワインガーズという人の書いた「わたしのガリラヤ わたしの民」というタイトルのすぐれた本があります。彼はオランダ人の両親のもとインドネシアで生まれました。カトリックの司祭でした。この本は、考古学も参考にしながらガリラヤ地方のことについて丁寧に説明をしてくれています。

その中にイエスさまの故郷「ナザレ」のことも出て来ます。

ナザレのことを紹介したと思います。

この本によると考古学の発掘では、ナザレは本当に小さな村で、ガリラヤ地方の町のリストにも出てこないような小さな村であったとのことでした。周りを岩山に囲まれた、周りからは見えにくい盆地にあり、せいぜい20、30軒ほどの家があっただけということで、人々は狭い場所にぶどう畑、オリーブ畑、そして穀物などを育て貧しい生活をしていました。村の家はひとかたまりになるようにぎっしりくっついた配置になっていたとのことでした。これは外敵から守るためであったと。ヨハネによる福音書によると弟

子に選ばれたナタナエルも最初、イエスがナザレの出身であると既に弟子として選ばれていたペトロに向かって「ナザレから何か良いものが出るだろうか。」といっています。神の子イエスがナザレで育たれたので今日、この小さなナザレの村には世界中から巡礼者が集まってくるようになりました。わたしもかつてその一人として訪問しました。

ご存知の方々も多いように、イエスの30歳までの仕事は大工でした。当時のナザレの大工は、言ってみれば村の便利屋さんで、頼まれて、いろんな仕事をしたとのこと。わたしとしては今回とても新鮮な発見でした。大工はどのこの村でもなくてならない存在だったとのこと。建築から農機具の修繕まで何でもこなしたそうです。イエスは建築請負業、大工、石工、鍛冶屋、などをひっくるめた仕事をする、村の「建物師」だったのです。イエスは日常生活のことを良くぞ存じだったのです。それが語られた数々のたとえ話によく表れています。砂の上の家や岩の上に建てた家のこと、岩の上に立つ教会のこと、家の建て方や隅の親石の必要性などなど思い出します。

もちろん野の花のことや、育って行く種のことなど。

またジョン・ワインガーズによれば、イエスは他の村人と違うところは、幼い頃から、思索と祈りに十分時間をかけていたことだと言われます。そしてイエスは、神のみ業である自然と、神のみことば・聖書について理解を深めようとしていました。今から約2000年前聖書と言えば旧約聖書のことです。特にイエスさまは、詩編やイザヤ書、創世記を始めとするモーセ5書は良く読まれたと思われ、話の中でよく引用されています。

ナザレの村のまわりは田園地帯、山に登れば地中海や聖書に出てくるカルメル山やタボル山、年中雪を頂いたヘルモン山も見えとのこと。

ただ村人たちは常に外敵の侵略を恐れて生活しなければならなかったようです。

そのためか身内の団結力は強く、よそ者には警戒心が強く、宗教もユダヤ教以外は受け入れないという気風だったとのこと。島国で、長年、神社神道や仏教の影響の強い日本と似ているような気持ちもしました。

ちなみに家族は一族という意識がとても強く、一説には「兄弟」というのは、従兄弟まで含められたということです。そうだとするとナザレの村の半分の人たちは、親戚関係だったということになります。

こんな状況の中でイエスは、幼い頃より、神と、神の創られ人間ひとりひとりを大切にすることこそが、創り主なる神さまの心であると信じて生きてそれを言葉と行いで示されたのだと思います。これは今日においてもとても大切なことです。

最後にジョン・ワインガーズのまとめの言葉を紹介します。「イエスの宣教の中で最も強調したかったことの 하나가、ひとそれぞれをそのまま評価するということにあったのです。親戚だからとか趣味が共通しているから、などということではないのです。神の国で最優先されるのは、今も昔も人間なのです。」と。わたしの心に深く沁みました。家族や親戚、地域とのつながりは大切ですが、それを超えた神の愛の支配する国があるということです。

このことを覚えながら、今日のみ言葉に聞くと見えてくるのがあり、こえてくる声があるように思うのです。

イエスは故郷ナザレの村で礼拝をされた時、

2:安息日になったので、イエスは会堂で教え始められた。

ユダヤ教の安息日は今日の土曜日にあたります。会堂・シナゴグでの礼拝の場面です。イエスは神さまから受けた愛溢れ、かつ力強い言葉を語り出されたのです。そこにいた人々はイエスの口から出ることばに驚きます。そして、それを聞いて、驚いて言った。「この人は、このようなことをどこから得たのだろう。この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡はいったい何か。」と。

多くの親戚関係のそこにいた人々の知るかぎり、イエスが都会のエルサレで聖書の専門学校などで学んだことはないことを知っていたのです。そんな時間はイエスが願っても与えられなかったのです。しかし、イエスには、神が与えられた確かな知恵があり、イエスの行う奇跡の業は認めるしかなかったのです。確かな知恵は、神から来る、与えられるのです。知恵はヘブライ語ではホクマーと言われ旧約聖書ではとても大切なこととばとされます。ギリシア語では、ソフィアといわれ、キリスト教では、神の与える力として大切にされています。そこにいる人々は、自分の見て来たものでしか見れなかったのです。

つまりイエスを神の子、救い主・キリストとみれないのです。受け入れることができないのです。これは、そう思わせて頂けないと血のつながりだけでは見えない、思えないのです。それゆえ、信仰は神さまから与えられる恵みなのです。 3:この人は、大工ではないか。マリアの息子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」

ナザレの多くの人々が、家族や親戚関係などを神以上に第一としているのでイエスを神からの預言者、神からの使者と受け入れることはできなかったのです。そして、人々は目の前で語るイエスにつまずいたのです。

その後、ナザレの村の発掘調査ではユダヤ教だけの遺跡だけが見つかり、キリスト教の面影を残すものは発掘されていないとのことです。4:イエスは、「預言

者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」と言われた。

5:そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。

6:そして、人々の不信仰に驚かれた。

今日の個所と類似している場面がルカによる福音書にも記されていますが、イエスの言葉に憤慨した人々がイエスを捕え崖から突き落とそうとしたことが記されています。この時、イエスはそれらの人々から何とか逃げることができたようです。

今日の「故郷で受け入れられないイエス」の話は、やがてエルサレムで起こった神の子イエスの十字架の先取りのように思えるのです。救い主イエスは、愛するイスラエルの民の元に神さまから遣わされました。神の創った人間の元に遣わされます。しかし、十字架につけられ拒まれ、イエスは死ぬことになります。何という残念で悲しいことでしょうか。

しかし、これで決して終わりではないのです、イエスの愛は生き続けるのです。復活の光は暗闇にゴルゴタの丘に輝くのです。今も輝いているのです。まことの愛は続くのです。用いられるのです。地縁関係、国籍を超えるイエスの十字架の愛が現れ、今や世界に広がっているのです。

わたしたち、故郷や家族、親せき、自分の住む国を大切にしながら、そのことを絶対と思うのではなく、それを包み、それを超える神の愛の力と教えを大切にし、「互いに大切にしようこと」を、伝える者たちでありたいと願います。

◆ナザレで受け入れられない

- 1: イエスはそこを去って故郷にお帰りになったが、弟子たちも従った。
- 2: 安息日になったので、イエスは会堂で教え始められた。多くの人々はそれを聞いて、驚いて言った。「この人は、このようなことをどこから得たのだろう。この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡はいったい何か。」
- 3: この人は、大工ではないか。マリアの息子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」このように、人々はイエスにつまずいた。
- 4: イエスは、「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」と言われた。
- 5: そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。
- 6: そして、人々の不信仰に驚かれた。